平成25年2月1日
２月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知教育大学
附属岡崎小学校長
増田　樹郎氏
この人に聞く …… 2
ロンドンオリンピック
棒高跳出場
山本　聖途氏
羅針盤 …… 2
新香山中学校長
権田　隆志
ふれあい …… 3
六ツ美中　浅井　貞人
特　集 …… 4
高橋淳教育長を訪ねて
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
入学時　身体検査
この本を …… 8

教育随想

『いのちを迎える力』

愛知教育大学
附属岡崎小学校長
増田　樹郎　氏

「二十世紀は子どもの世紀」だと語ったのはエレン・ケイでした。顧みて、彼女がそう願ったのは、二十世紀がそうでなかったからだというのは穿(うが)った見方なのでしょうか。

わが国では、豊かさの裏側で貧しい子供はおよそ七人に一人。母子世帯の貧困率は先進諸国のトップです。虐待件数も年間六万件を超えてなお増え続けています。出生前診断の論議も盛んな今後は、生まれくる生命のイメージも変わっていくのでしょうか。

遠き時代、ある試みが行われたそうです。乳児を十人ずつの二グループに分けます。両者とも抱きあげて、ほ乳瓶から十分なミルクを与えます。ただ、一方にはたえず語りかけ、他方にはいつも黙っています。その結果、前者は丸々と太り、後者は二歳までにみな亡くなりました。何ともおぞましい話ですが、〈いのち〉の根源的なあり方を教えています。

〈いのち〉は独りで育つのではありません。語りかけと応答の関係のなかで、生命の記憶が呼び覚まされてはじめて、幼子は生長することができるのです。現代は、大人との境界が壊れて、早くに自立するように急(せ)かされているようです。子供としてゆっくりと〈いのち〉を成熟させていくことができれば、子供は自らの大切さに気付き、認め愛される歓びをもって生きていくことができるのです。

〈いのち〉は、誰しもつくることができないがゆえに、それを傷つけることも、ましてや殺(あや)めることもできないのです。いかなる状況においても、人は愛されたいと思い、愛したいと願います。優しくされたいと思い、優しくしたいと望みます。

二十一世紀、人本来の生き方を伝え、学び、教えていく確かな世界があれば、子供たちはどんな状況をも切り拓き、その歩みを止めることはないと信じています。

（ますだ　たつろう）

この人に聞く

一途な気持ちで さらなる高みへ

ロンドンオリンピック
棒高跳出場
山本　聖途　氏

「オリンピック本番に向けて、とても気持ちは前向きでしたが、決勝で戦うことばかりを考え、予選通過という目の前のことを見失っていました。しかし、得たものも多く、一流選手の試合に向けての調整方法などを間近で見ることができて大変勉強になりました。」

二十歳で棒高跳日本代表となった山本選手は、初の国際大会、ロンドンオリンピックを冷静に振り返った。

目標とした結果を出せず、オリンピック後はかなり気持ちが落ち込んだそうだが、そこで挫折する選手ではなかった。

「気持ちを切り替えてやらないとつぶれるぞ」というコーチの言葉に奮起し、十月の実業団・学生対抗では、自己ベストを更新し、日本学生新記録の五メートル六十五で見事に優勝した。

棒高跳を始めたのは、岩津中学二年のときである。陸上部員として参加した岡崎城西高校での長距離記録会の場で高校の先生に勧められた。

同校に進学し、高校二年で五メートルの自己ベストを出した。高校三年のときには、国体準優勝も果たす。現在は、中京大学で日々練習に励む。

「実際に跳躍の練習をするのは週に一回です。あとは走ったり、基礎体力を高めたりする練習をしています。毎日跳ぶより、週一回の楽しみと考えた方が、やる気が高まります。」

「棒高跳は危険な競技です。ポールが折れてしまうこともあります。全身の神経を集中させて跳躍に挑みます。バーを越えるときは一瞬ですが、そのときの爽快感がたまりません。自己記録を更新したときの喜びは格別です。」

高校三年のときに、より高いレベルを目指すため、コーチの勧めで跳躍スタイルを変えた。大学三年の春にようやくそのスタイルをものにできた。今年度で記録は三十センチも伸びた。日本学生新記録を出した大会も、疲労が残っていて八十五パーセントの状態だったといい、まだ伸びしろを十分残す。

「まずは自己ベストを更新し、今シーズンの内には日本記録五メートル八十三を更新したいです。世界選手権、そして、三年後のリオデジャネイロでのオリンピックでは、世界のトップクラスで戦いたいです。」

日本人では初の六メートルの記録を出すことも大きな目標であり、実現の可能性も見えてきた。

「陸上競技は個人種目が多く、一人でも練習ができそうに思えますが、そうではありません。特に棒高跳は絶対に一人ではできません。バーの上げ下ろしをしてもらったり、風や踏切位置を見てもらったりと、たくさんの人の支えがあってできる競技です。だからこそ、感謝の気持ちを大事にしなければならないと思います。」

「**聖**火台に向かって一**途**に頑張れ」名前に込められた両親の思いを実現した山本さん。棒高跳への一途な思いがさらに花開く予感がした。

（氏　名　やまもと　せいと
生年月日　平成四年三月十一日
住　所　岡崎市東蔵前町）

羅針盤

「いいところ」探し

新香山中学校長　**権田　隆志**

かつて中学校に教務主任として勤務していたとき、日程、出張予定、諸連絡等、お決まりの「教務通信」を出していた。紙面が埋まらないときには、新聞、各種情報誌、教育書等の切り抜きを掲載して、なんとか体裁を整えていた。だから、職員に届くと、数時間後にはごみ箱行きの運命になることもあった。

ある年、職員から楽しみにしてもらえる教務通信にしようと一念発起した。紙面の半分を「ちょっといい話」というコーナーにして、生徒や教職員のホットな話題を毎日載せることにしたのだ。

その日からいいところ探しが始まった。学校中を歩き回り、できれば全員の生徒と職員が登場することを願ってスタートした。

ところが、毎日となると、思った以上に苦戦した。悪いところばかり

チームづくりは人づくり

六ツ美中　淺井　貞人

A男は現在、中学校の体育教師を目指し、高校でバレーボールを追いかけて頑張っている。

五年前、彼がバレーボール部に入部したときは、ボール拾いなど自分のやりたくないことはしないし、人のために頑張ろうとする姿は全く見られない生徒であった。

しかし、A男は、誰よりもバレーボールが好きであり、誰よりも負けず嫌いであった。そこに、これからA男を成長させる手立てのヒントがあると感じた。

バレーボールはつなぎを大切にするスポーツであり、自分の次の選手のことを常に考えなければならない。バレーボールを通して仲間を大切にする心を育てようとA男に接した。また、「スポーツは人がするもの。勝ち負けは、その人がどんな生き方をしているかという部分が決める」と、負けず嫌いなA男の心を揺さぶる言葉掛けもした。

事あるごとに、部活動を通して、人として大切なことは何かをA男に諭す毎日であった。

そんな私の指導に対して、A男は地道に部活動に取り組んでいた。A男の姿に成長を感じ始めていたある日、事件は起こった。

宿題をやりたくないため、級友のノートを自分の名前に書き変えて提出したのである。私の期待は、あっさりと崩れた。

私は、A男を厳しく指導し、バレーボールをする資格はないとして部活動に参加させなかった。それから、A男は私の所へ毎日謝罪に来た。しかし、ただ勝つために部活動をしているのではないという私の思いを心で受け止められていなかったA男を、私は許さなかった。

A男と私の溝が埋まらず、具体的な解決策が見つからないまま数日が過ぎたある日、業を煮やした担任がA男を呼び寄せ、今までどんな気持ちで部活動に取り組んできたのか問いただした。するとA男は、

「僕がバレーボールに真剣に取り組んできたのは、お世話になっている淺井先生を全国大会に連れて行きたいからだ。このメンバーで全国大会のコートに立ちたいんだ。」

と、涙ながらに担任に訴えた。

あれほど自分中心だったA男の心に「感謝の心」や「仲間を思う気持ち」が芽生えているのを実感した。自分の指導方針は間違っていなかったと感じた私は、A男の成長に目頭が熱くなった。

翌日、A男の言葉をチームに伝えた。すると、「僕たちも同じ気持ちです」という言葉が返ってきた。チームの思いが一つであることを実感した彼らの練習は、一段と真剣さを増した。

その夏、A男たちは、予選を見事なチームワークで勝ち抜いて全国大会に出場し、最高の仲間と全国の大舞台で活躍した。

「チームづくりは人づくり」と、先輩の先生に教えられたことがある。部活指導においては、勝ち負けよりも、子供たちを人としてどう成長させられるかという点を大切にする指導方針は、これからも変わることはない。

が目につき、なかなかいいところが見つからなかった。「これは自分の見方が悪いのだろう。もっと目を皿のようにし、アンテナを高くしなければならない」と考えるようになった。そこで、授業、給食、清掃、生徒会活動、部活動等、様々な場面で、生徒たちとふれあい、話し掛けた。

担任は、自分の学級の生徒のことが載ると、教室でも自慢げに話題にすることもあった。職員が載ったときには、照れながらも、まんざらではなさそうだった。何より職員室で明るい話題が増えた。次は誰かなと、楽しみにしてもらえた。

おかしなもので、はじめは取材に苦労したのに、喜んでもらえると、いいところが次々と見えてくる。つまり、目の付け所、目線の高さ、生徒たちとの距離、心のもち方一つで、いいところは見つけられるのだ。

悪いところばかりを指摘しても生徒は心を開かない。時には悪いところを見て見ぬふりをし、いいところを見つけ大げさに褒めることが大切である。

そうした心の余裕が大事で、生徒の思いを受け止める心の広い教師、褒め上手な教師がもっと増えることを願っている。

特集

二十一世紀を希望の未来に
岡崎の子供たちの幸福のために

髙橋淳教育長を訪ねて

岡崎市では、二十一世紀を希望の未来にするための教育として、持続発展教育を推進し、積極的に取り組んでいます。

その中で、私たち岡崎の教師が忘れてはならないことについて、髙橋新教育長にうかがいました。

岡崎の教育がめざすところについて、先生のお考えをお聞かせください。

教育とは、崇高で素晴らしいものだと考えています。

天然資源に恵まれない我が国が、確固たる世界的地位を確立するためには、「教育」が最も重要だと考えます。それは、優れた人材・人間性の育成によって、日本人の頭脳や心が高いレベルで育成されるならば、必ずや世界競争を勝ち抜く力が育まれるだろうと信じるからです。我が国の将来の発展の原動力たり得るものは、人づくり、すなわち「教育」をおいてほかにはありません。

日本には、世界に誇れる人物が、たくさんいらっしゃいます。

藻類から石油の精製を試みている渡邉信教授は、「日本を石油産油国にしたい。そして、最終的には、世界の人々が喜び、笑顔で生活できるようになればいい」と言われました。また、今回、ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸也教授は、「少しでも早く、病に苦しむ患者さんの役に立ちたい」という思いで研究に没頭したと伝えられました。そのほかにも、たくさんの国や地域で、地道な活動をし、活躍している人がいます。それらの多くの日本人は、「人々の幸せ」を追求しています。

我々、教育に携わる者の追求するところも、多くの人々の幸せでなくてはならないと思います。

私たちは、岡崎の子供たちの幸福のため、魅力ある人間性をもち、魅力ある教育をめざしたいと思います。

子供たちの将来の幸福を考えたとき、私たち教師に必要なものとは何でしょう。

誰もが温もりを感じる岡崎の子供たちの育成こそが、世界に通用する人づくりにつながると思っています。優れた教師がいてこそ、優しく、清々しい心をもった子供たちが育つのだと思うのです。そのために、教師は、高い人間性と専門性を身に付け、質の高い教育を提供しなければなりません。ですから、教師の人材育成は大変重要です。

幕末に生きた緒方洪庵や吉田松陰は、世の中を動かすような人材を育てました。彼ら自身が志高く、世のためにという気持ちをもっていたからこそできたことだと思います。

世の中のために、世界の人々のためにと考えられるような、志の高い子供たちを育てること、これこそがＥＳＤにつながるのです。環境問題について考えるにしても、人種の問題を考えるにしても、また、エネルギー問題を考えるにしても、世の中のためにと考えられることが、持続可能な社会を支える人材と言えるのではないでしょうか。私たち教師は、自分自身が理想を掲げ、高い志をもたなければならないと思います。

もう一つ思うのは、教師は、実に善良な方が多く、その集まりの中で毎日生活しているためか、言動にやや甘さがあるということです。その甘さは仕事に現れます。たとえば、自分が判断して行動した結果なのに、思い通りにいかないと、他に原因があると考えたり、言い訳したりしてしまうというのも、甘さだと思います。一生懸命やっても失敗することは誰にでもあります。肝心なのは、それを人のせいにせず、次の最善の方法を考え、実行することです。それは、つまり、信念をもって仕事をするということです。そして、信念をもつということは、覚悟をもつということです。私たちは、人間を育てる仕事をしているということを肝に銘じ、覚悟をもって仕事をしてほしいと思います。

先生の信条や座右の銘を教えてください。

「教師は『こころ』を形作っていく芸術家」だと思っています。

――まだまだ未完成な心を練り込み、
水を加え、丁寧に形を整えていく。
心に美しいメロディーを吹き込んで、
清らかにしていく。
心に鮮やかな色を混ぜ合わせて、
豊かな情緒を育んでいく。――

ですから、練り込みが不十分だったり、乱れたメロディーを吹き込んだり、色彩が合わなかったりしたら、『こころ』が不完全になります。皆さんにも、そんな思いを抱きながら、責任と自覚をもって教育に当たっていただきたいと願っています。

子供たちは、時を刻む時計のように進歩していきます。したがって、教育には休憩というものがありません。アインシュタインは、「人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには、走らなければならない」と言いました。人間を成長させるということも、走り続けるということでしょう。「教育とは、生半可な気持ちでできることではない」ということを忘れないでください。

私は「桃李成蹊」という言葉が好きです。魅力的な人間性をもち、その人に吸い付けられるようにたくさんの人が自然に集うならば、そんなに素晴らしいことはありません。すべての教師はそうあってほしいし、私もそうありたいと願っています。

お知らせ

●教育最新情報

○来年度研究発表校

来年度は、市委嘱の研究発表校が二校、自主発表校が二校である。また、県へき地教育研究に関わり一校行われる。

◆市委嘱研究発表

・常磐南小学校

十月十六日（水）

「未来へつなごう！常南のこころ　―ＥＳＤの視点に立った教育活動の展開―」

・六ツ美中部小学校

十一月二十二日（金）

「明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成　―環境学習を基盤にしたＥＳＤの推進―」

◆自主研究発表

・本宿小学校

十月十一日（金）

「生きる力を育む小学校英語の創造 2013 ～英語が話せる本宿っ子をめざして～」

・竜海中学校

十一月十三日（水）

「自ら学び、表出する生徒の育成　―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―」

◆県委嘱研究発表

へき地・複式教育研究協議会

・形埜小学校

六月十二日（水）

「ふるさと形埜に根ざし、学ぶ喜びを創り出す子ども～発見と感動が生まれる「木の芽学習」の探究～」

◆附属学校研究発表

・附属岡崎小学校

五月二十九日（水）

十一月二十日（水）

・附属岡崎中学校

六月十五日（土）

十月一日（火）

・附属特別支援学校

十一月八日（金）

○第46回愛知県教育研究論文

岡崎市からは、個人の部に四名が入賞した。

佳作

美合小学校　　成瀬　美穂

「多様な文章を自力で読み解き、表現できる子をめざして―六年『未来に生かす自然のエネルギー』の実践から―」

井田小学校　　白川　真理

「子ども自ら基本的な動きのコツを体得し、友達と一緒に楽しくゲームに取り組むことができる体育学習―一年生ボール遊びはしごドッジボールの実践を通して―」

奥殿小学校　　平木　順子

「夢中になる活動から、この子の可能性を引き出す支援の追究―活動の中から伸びる芽を捉え育む―」

竜南中学校　　中根　好乃

「生きてはたらく書写力を育てる授業―毛筆・硬筆一体化を図る毛筆入門期三年生の実践―」

○第56回小中学校書き初め展

一月十八日（金）から二十日（日）まで、岡崎市美術館で、小中学校書き初め展が行われた。

市内各小中学校、附属学校、聾学校の学級代表の作品、二一〇六点が展示された。

本年度より、手本は教科書とした。各学年の題字は以下のとおりで小一・小二は硬筆、小三以上は毛筆である。

小一（硬筆）

小学生になって、はじめてのお正月です。わたしは、大川さんと、たこあげをしました。

小二（硬筆）

岩手のおじいさんの家で、新しい年をむかえました。みんなで、カルタとりをしたことが、楽しかったです。

小三　お正月

小四　美しい空

小五　新春の光

小六　伝統を守る

中一　温故知新

中二　力強い前進

中三　信念を貫く

希望に輝く春

山青花欲燃

（毛筆は、小学校が楷書、中学校が行書）

今年度も、各学校で取り組んだ硬筆書写の作品や、岡崎に関わる言葉を選んで作品にした「岡崎の心の醸成」の作品が展示された。

多くの方が会場を訪れ、子供たちの作品を鑑賞した。家族連れも多く、作品の前で記念写真を撮るほほえましい姿が、あちらこちらで見られた。

●表　彰

◆「住みよい地球」全国小学生作文コンクール二〇一二

高学年の部　佳作

六ツ美中部小六年　石原花純

◆デジタルアートグランプリ二〇一二

中学生・高校生静止画部門

優秀賞

竜海中二年　アルスハイマー滉央

入選

竜海中二年　林　貴之

◆花と私の作文コンクール（東海・北陸・近畿）

中日新聞社賞

形埜小三年　竹内紗羽

◆平成二十四年度土砂災害防止に関する絵画・作文（県）

作文部門小学生の部

優秀賞

六ツ美中部小二年　山崎大雅

◆平成二十四年度駅伝カーニバル（県）

中学生男子の部

優勝　東海中学校

二位　竜南中学校

三位　南中学校

四位　竜海中学校

五位　甲山中学校

六位　六ツ美北中学校

中学生女子の部

優勝　六ツ美北中学校

二位　竜南中学校

三位　甲山中学校

四位　南中学校

五位　福岡中学校

六位　東海中学校

◆平成二十四年度水質パトロール隊事業　優秀レポート表彰（県）

優秀賞

東海中学校　自然科学部

矢作北中学校　科学部

◆第63回岡崎市民駅伝競走大会

男子の部

優勝　南中学校A

二位　竜海中学校A

三位　矢作中学校A

四位　甲山中学校A

五位　竜南中学校A

六位　東海中学校A

女子の部

優勝　竜南中学校A

二位　東海中学校A

三位　六ツ美北中学校A

四位　甲山中学校A

五位　南中学校A

六位　矢作北中学校A

●ハートピアだより

感謝の心を

―「贈呈式」で学ぶ―

「新しいグローブとミニサッカーゴールなどを寄贈していただき、ありがとうございました。（中略）この後、今日のために皆で練習した『すばらしい言葉』を歌い、簡単なゲームも用意しています。最後まで楽しんでいってください。」

昨年末、岡崎葵ライオンズクラブより、ハートピアに用具等を寄贈していただきました。その「贈呈式」を開いたときのこと、作文を書くことを苦手としていたA君が、お礼の言葉を考えて書き、堂々と述べることができました。指導員の支援があったことはもちろんですが、本所で過ごしたこの九か月間の経験が、A君に変化をもたらしたのかとうれしく思いました。

一人一人が様々な課題を抱えている通所生は、他人と関わる機会も限られています。彼らが、人から受けた善意に対して、どう返したらよいのか戸惑っている場面に出会うことがあります。

「贈呈式」を、これを乗り越える体験の機会として捉え、子どもたちに活躍の場を用意しました。前述の「代表お礼の言葉」を担当したA君をはじめ、「お楽しみ会」でゲームを担当した者、お汁粉会食を担当した者、全員合唱で曲目紹介・指揮をした者など、形を変えて「感謝の気持ち」を表現することを学ぶ場とすることができました。

人間は一人では生きていけません。様々な人が自分の役割を果たしながら互いに支えあっています。子供たちには、自分のために何かをしてくれた人に、「ありがとう」の一言を素直に言えるような人になってほしいと願わずにはいられません。

フォトヒストリー 岡崎の教育

入学時　身体検査

（昭和７年）

写真提供：矢作西小学校

保護者に付き添われて、入学時の身体検査を行っている。昭和七年の本校の受診者は、約五十人。火鉢が置かれ、はんてんを着ている子もおり、寒い冬に実施されていることが分かる。列の後ろの保護者や子供たちが、検査の様子を、心配そうにのぞき込んでいる。

現在も、学校保健安全法に基づき、就学させるべき者に健康診断を行わなければならない。多くの小学校が十一月に実施している。本校では、五年生が約五十人の就学予定児童を引率し、医師に診断してもらっている。また、保護者に対しては、入学までの準備、心構えについての教育講演会を行っている。

本年度、岡崎市の就学時健康診断を受けた児童は約三七〇〇人。入学に向けた親子の風景は今も昔も変わらない。

・カット　矢作中　川口典子

オアシス

オリンピックを経験して、人間的にも大きく成長した山本選手。「実業団・学生対抗で日本学生新記録を出して優勝した日が母の誕生日だったのですよ。最高のプレゼントになりました」と、家族にも感謝の思いを示す。

「今を全力で」がモットーの山本選手。今後の活躍に胸が躍る。

霜が降りるような花の少ない真冬に、鮮やかな花を咲かせるロウバイ。甘い芳香を放つロウバイは、殺風景になりがちな真冬の校庭では、彩りと香りで校庭を華やかにし、重宝されている花の一つである。更に、この花からは解熱、火傷などに効く薬が作り出されるという。その万能さには感心するばかりである。

新しいリーダーのもと、私たちが心がけるべきことは何だろうと考えてみる。いろいろ考えてみたが、やはり「不易流行」の四文字にたどり着くのではないだろうか。今までの岡崎の伝統を引き継ぎつつ、教育の本質を忘れずに、新しい流れを私たち現場の教員からも作り上げていきたいものである。

澄んだ青空の下、子供たちの声が銀世界に響き渡るスキー合宿。夜は、「立志の会」が粛々と行われ、保護者からの温かい手紙が子供に送られる。日ごろの感謝を改めて感じ、ろうそくの灯りの下、あちこちで涙が光る。離れているからこそ返信には素直に気持ちが書けるのだろう。ひと回り成長できる野外活動である。

この本を

＊**空より高く**　重松　清
　中央公論新社　¥1,575

＊**ひまわりのおか**
　岩崎書店　松成真理子 絵・葉方 丹 文
　¥1,575

＊**赤い高粱**　莫　言
　岩波書店　¥1,092

＊**教科書でおぼえた名詩**　文藝春秋編
　文春文庫ＰＬＵＳ　¥530

＊**ことば点描**　外山滋比古
　大修館書店　¥1,470

コーラがはじめて日本へ渡来したとき，アメリカが強制した宣伝文句は「Drink Coca Cola（飲めコカコーラ）」であった。にも関わらず，それを，「スカッとさわやかコカ・コーラ」と変更した日本の表現には，相手に不快の念を与えない，敬語の心が宿っているという。また，日本語には，元来句読点や段落がなかったことや，第四人称・第五人称の話など，まさに目から鱗が落ちる思いである。

いつの間にか外山流に引き込まれてしまう好著である。

六ツ美南部小　山本　満夫